

学校教育目標

学校図書館は、教育課程の展開に寄与するとともに、児童の健全な教養を育成することを目的とする。

よく考える子ども
心豊かな子ども
最後までやりぬく子ども
健康な子ども

多くの児童が本好きで、低学年は、図書室割り当ての時間によく本を借りている。高学年になると、読書が減る傾向がある。調べ学習で図書館を利用するよう指導している。

学校図書館の目標

学校図書館の活用を通して、読書に親しみ、自ら学ぶ意欲と態度を育て、生涯学習の基礎を培う

ね ら い

- ① 児童の読書意欲を盛んにし、豊かな心情と幅広い知識を身に付ける。
- ② 学び方指導を充実し、図書館活用の望ましい態度や技術を高める。
- ③ 多様な資料から目的に応じた情報を選び、課題解決を図り、情報活用能力を育成する。

指導の重点

- ① 教育課程全体を通して、朝読書や読み聞かせなどの機会を設け、読書に親しむ児童を育てる。
- ② 図書館を活用した教科等の学習の充実と情報活用能力の育成を図る。
- ③ 保護者ボランティアと連携し、図書館の整備と図書館を積極的に活用した教育の推進を図る。

各学年の重点目標

第一学年	・本に親しむ。 ・図書館の使い方を知る。 ・好きな本を紹介しあう。	第三学年	・様々な種類の本を読む。 ・図書館を使って調べる。 ・感想や調べた事で交流する。	第五学年	・日常的に読書に親しみ、知識を増やし、心情を豊かにする。 ・新聞やポスターなど情報の伝達方法を知り、発表し合う。
第二学年	・いろいろな種類の本を読む。 ・図書館を正しく使う。 ・分かったことや心に残ったことを文や絵にかく。	第四学年	・読書の幅を広げ、進んで読み、読書量を増やす。 ・辞典や図鑑で調べたことをまとめて説明する。	第六学年	・適切な本を選んで読む習慣をつける。 ・題材を決め、複数の本や新聞で調べた事を報告する。

具体的な取り組み

〔各教科〕

- 図書館機能を活用し、課題解決学習、調べ学習、個別指導やグループ学習の場とする。
- 情報の収集、処理等、情報活用能力を養う。
- 読書指導を行い、読書習慣、態度を養う。

〔読書科〕

- 「読み語り」等による読書を推進し、習慣化させる。
- 図書館資料を活用した「調べる学習」を行い、整理・分析し、表現する力を養う。

〔総合的な学習の時間〕

- 学び方や考え方を身に付けさせる。
- 課題の解決、探究に主体的に取り組ませる。
- 系統的に情報活用能力を育成する。

〔特別活動〕

- 図書委員会を中心に、自発的・自治的に図書館を運営し、読書活動を推進する。
- 特別活動の中で積極的に図書館を活用する。

〔特別の教科 道徳〕

- 図書資料を通して、様々な生き方や考え方に接する中で、自分を深め、道徳的心情を培う。

〔家庭・地域との連携〕

- 読書週間を設け家庭での読書を推進する。
- ボランティアや公立図書館と連携する。

朝読書の推進

小中連携した図書館の活用

図書環境の整備・充実